

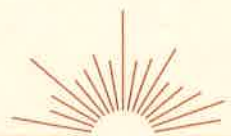
回覧

開館 30 周年記念

Since 1958: The Beginning of Mashiko Studio Pottery

益子個人陶芸の夜明け

1958

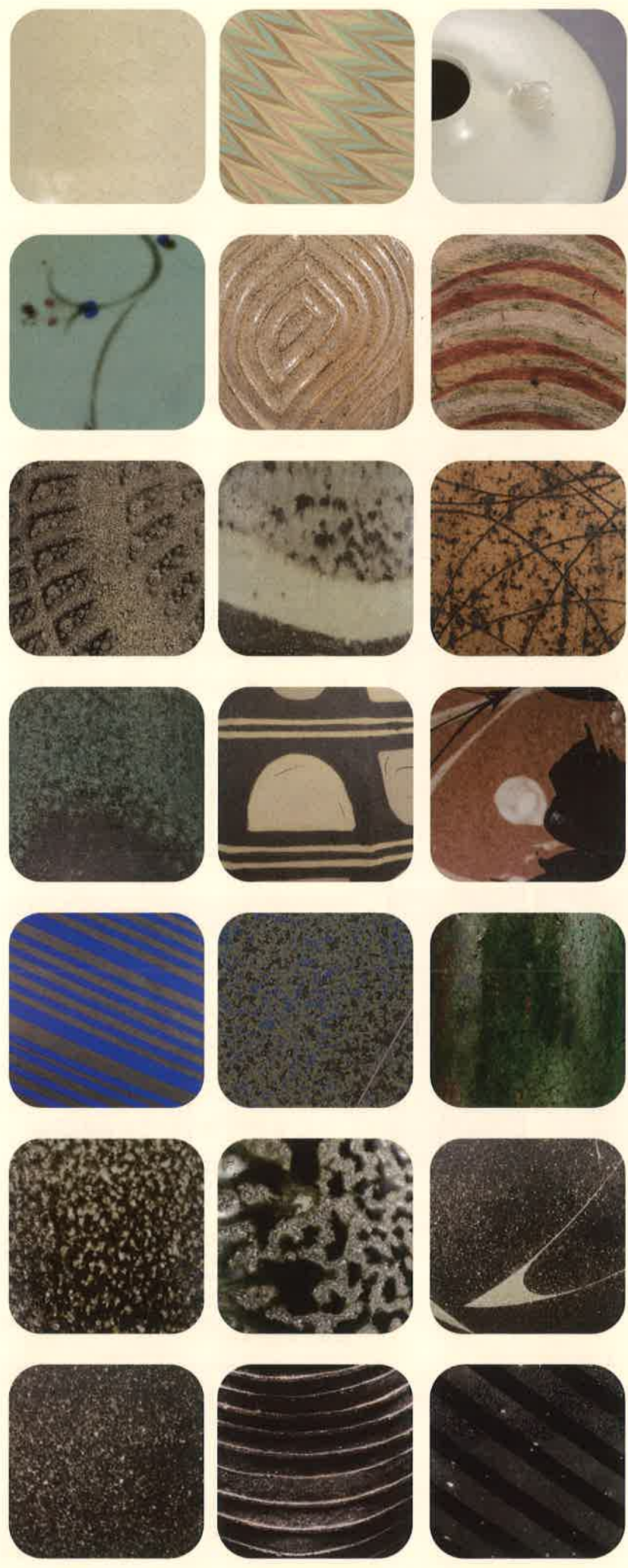


2023.  
4.16 (日) - 7.17 (月・祝)

開館時間：9:30-17:00(最終入館は16:30まで) / 休館日：月曜(祝休日の場合は翌日)、5月9日(火) ※5月1日(月)は開館 / 主催：益子町文化のまちづくり実行委員会、益子陶芸美術館 / 後援：下野新聞社、とちぎテレビ、栃木放送、エフエム栃木、真岡新聞社 / 入館料：大人600円(550円)、小中学生300円(250円) ※ ( )内は20名以上の団体 / 65歳以上300円(要証明) 県民の日[6月15日(木)]は全ての方が入館無料となります。

※ 今後の状況により、展覧会予定に変更が生じる場合がございます。最新情報は、当館ホームページ・Facebook・Twitter・Instagram等でご確認ください。

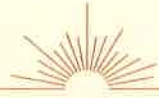
益子陶芸美術館  
Mashiko Museum of Ceramic Art  
栃木県芳賀郡益子町益子3021 TEL:0285-72-7555  
URL: <http://www.mashiko-museum.jp/>   



# 1958~

Since 1958: The Beginning of Mashiko Studio Pottery

## 益子個人陶芸の夜明け



1. 松原直之《黒陶 山翡翠》2005年 2. 高内秀剛《織部手桶》 3. 廣崎裕哉《牙白磁瓶子鳥文花生》2009年  
4. 長倉翠子《環》1985年 5. 伊藤信《象嵌壺》 6. 大宮司崇人《焼締皿》 7. 小滝悦郎《細線文花入》  
8. 菊池昭《塩釉花生》1988年 9. 加守田章二《曲線彫文壺》1970年 10. 瀬戸浩《金銀絵付壺》1985年 全て益子陶芸美術館蔵

### 同時開催の企画展示

スポットライト「一窯変を求めてー 峯岸勢晃」

2023年4月16日(日)~7月17日(月・祝) 当館2階展示室 (要入館券)

益子国際工芸交流事業2022 アーティスト・イン・レジデンス in 益子 ターニャ・ヘルマン+太田剛速

2023年3月25日(土)~6月18日(日) 当館第3展示室 (入場無料)

### 次回企画展

「開館30周年記念 陶芸家 和田的展」

2023年7月30日(日)~10月9日(月・祝)

昭和30年代に入ると益子には陶芸を志す若者が数多く訪れるようになります。同じ頃、益子の塚本製陶所(現、株式会社つかもと)では研究生制度が発足しました。日中は従業員と同じ勤務につき、終業後夜10時までは工場であくらの勉強ができたというこの制度は、1993(平成5)年まで続き100名を超える研究生が学びました。そのうちのひとりに加守田章二がいます。茨城県の日立製作所派遣研修生であった加守田は、1958(昭和33)年、益子に移り研究生となりました。本展では1958(昭和33)年から70(昭和45)年頃に研究生として益子に入った、加守田章二、白石磨、瀬戸浩、廣崎裕哉、武田敏男、菊池昭、鈴木量、ゲルト・クナッパー、松村仁団望、伊藤信らと、同時期に益子で作陶をはじめた小滝悦郎、松原直之、安田猛、大宮司崇人、吉川水城、長倉翠子、肥沼美智雄、高内秀剛、成良仁らを紹介し、濱田庄司が築いてきたそれまでの益子とは異なる、独自の作風を追求し、益子の一時代をなした陶芸家たちの作品をお楽しみください。

### Access



【バス】東武宇都宮駅西口1番バス乗り場、JR宇都宮駅西口14番バス乗り場から関東バス益子行、またはJR秋葉原駅から茨城交通高速バス「関東やきものライナー」笠間・益子行で陶芸メッセ入口下車徒歩2分。

【鉄道】JR小山駅から水戸線下館駅下車、下館駅から真岡鐵道益子駅下車徒歩25分。

【自動車】常磐自動車道友部JCT経由、北関東自動車道桜川筑西ICから20分。東北自動車道栃木都賀JCT経由、北関東自動車道真岡ICから25分。

※ 運行状況は各交通機関にご確認ください。

## 益子陶芸美術館

Mashiko Museum of Ceramic Art

栃木県芳賀郡益子町益子3021 TEL:0285-72-7555

URL: <http://www.mashiko-museum.jp/>